

平成18年3月期

中間決算及び通期計画の概要

大日本住友製薬株式会社
執行役員 岡村 一美

平成17年11月9日

旧大日本製薬 平成18年3月期中間決算の概要 (連結)

経営成績

旧大日本製薬

(億円)

	前中間期 実績	当中間期		実績	対 前中間期 増減額	業績予想との差額	
		業績予想				対当初 予想	対修正 予想
		当初 5/16	修正 9/29				
売上高	802	820	840	847	+ 45	+ 27	+ 7
営業利益	42	40	81	90	+ 48	+ 50	+ 9
経常利益	43	39	77	85	+ 41	+ 46	+ 8
中間純利益	26	7	34	40	+ 14	+ 33	+ 6

(注)記載金額は億円未満を四捨五入して表示しております。

会計方針の変更

旧大日本製薬

1. 工業所有権収入の損益計上区分

当中間期より「売上高」に計上…従来は、営業外収益として計上
(理由)

- 金額的に重要性が増したこと
- 今後継続的に発生することが見込まれるため

(損益に与える影響額)

- 売上高が36億円増加し、営業外収益が同額減少
- 経常利益及び税金等調整前中間純利益に与える影響はなし

2. 固定資産の減損に係る会計基準の適用

当中間期より適用

(損益に与える影響)

- 経常利益及び税金等調整前中間純利益が0.9億円減少

売上高の内訳

旧大日本製薬

(億円)

内訳		前中間期	当中間期	増減額
医薬品	ガスマチン	77	85	+ 8
	プロレナール	46	61	+ 15
	キューバル	13	19	+ 6
	エバステル	31	47	+ 15
	エクセグラン	30	31	+ 1
	その他	342	320	22
医薬品計		539	562	23
動物関連		140	128	13
その他		122	122	0
工業所有権収入		-	36	+ 36
合計		802	847	+ 45
(うち、輸出高)		(16)	(19)	(+ 3)

(注)品目別の売上高は、リベート控除前で記載しております。

売上高の増減要因

旧大日本製薬

< 増収要因 >

- | | |
|-------------------------------------|--------|
| 1. 工業所有権収入の増加
(会計方針の変更) | + 36億円 |
| 2. 主力医薬品の増加
(ガスモチン、プロレナール、キュバール) | + 29億円 |
| 3. エバステルの伸長
(OD錠:17年7月新発売) | + 15億円 |

< 減収要因 >

- | | |
|-------------------------------------|------|
| 1. 動物用医薬品の販売減
(カルドメック、エナカルド販売中止) | 13億円 |
|-------------------------------------|------|

売上原価、販売費及び一般管理費の内訳

旧大日本製薬

(億円)

	前中間期	当中間期	増減
売上原価 <工業所有権収入を除く原価率>	506 (63.1%) <63.1%>	496 (58.5%) <61.1%>	10
販売費及び一般管理費	254 (31.7%)	262 (30.9%)	+ 8
うち研究開発費	82 (10.2%)	78 (9.2%)	3

(注)()は対売上高比率

1. 原価率改善の要因

 品目構成の変化
 (主力医薬品の販売増)

2. 販売費及び一般管理費増加の要因

 広告宣伝費、販売促進費の増加
 (主力医薬品への注力、エバステルOD錠新発売)

特別損益の内訳

旧大日本製薬

< 特別利益 >

1. 厚生年金基金代行部分返上益 8億円

< 特別損失 >

1. 合併関連費用 21億円
(システム統合、拠点事務所移設、コンサルティング費用他)

2. 事業整理に伴う損失 2億円

財政状態(資産の部)

旧大日本製薬

(億円)

	前中間 期末	前期末	当中間 期末	前期末 増減
流動資産	1,156	1,312	1,295	17
固定資産	698	703	731	+ 29
合計	1,854	2,014	2,026	+ 12

< 流動資産 >

売上債権減少…………… 101億円
(季節要因による影響他)

たな卸資産の増加…………… + 30億円
(合併を控え在庫積み増し他)

< 固定資産 >

投資有価証券時価評価益の増加… + 45億円

財政状態(負債、資本の部)

旧大日本製薬

(億円)

	前中間 期末	前期末	当中間 期末	前期末 増減
流動負債	399	500	450	50
固定負債	151	160	165	+ 4
少数株主 持分	7	8	8	+ 0
資本の部	1,296	1,346	1,404	+ 58
合計	1,854	2,014	2,026	+ 12

< 流動負債 >

仕入債務の減少…………… 38億円

(季節要因による影響他)

< 固定負債 >

繰延税金負債の増加…………… + 17億円

(投資有価証券の時価評価益の増加)

キャッシュ・フロー

旧大日本製薬

当中間期末現金及び現金同等物 426億円(前期末 + 44億円)

営業活動によるキャッシュ・フロー + 51億円

・税金等調整前中間純利益	+ 70億円
・売上債権の減少	+ 93億円
・たな卸資産の増加	30億円
・仕入債務の減少	37億円
・法人税等の支払	39億円

投資活動によるキャッシュ・フロー + 4億円

・有形固定資産の取得	5億円
・投資有価証券の取得、売却	+ 7億円

財務活動によるキャッシュ・フロー 11億円

・短期借入金の減少	2億円
・配当金の支払	8億円

旧住友製薬 平成17年9月期決算の概要

経営成績

旧住友製薬

(億円)

	前中間期 実績	当期		対 前中間期 増減額	業績予想 との差額
		業績予想 5/13	実績		
売上高	682	670	724	+ 42	+ 54
営業利益	138	100	158	+ 20	+ 58
経常利益	134	90	150	+ 15	+ 60
当期純利益	83	65	99	+ 16	+ 34

(注)記載金額は億円未満を四捨五入して表示しております。

売上高の内訳

旧住友製薬

(億円)

内訳		前中間期	当期	増減額
医薬品	アムロジン	266	281	+ 15
	メロペン(国内販売)	59	70	+ 10
	メロペン(輸出)	46	80	+ 34
	ジルテック	38	24	14
	その他	263	232	31
医薬品計		671	686	+ 15
工業所有権収入		11	38	+ 27
合計		682	724	+ 42
(うち、輸出高)		(47)	(81)	(+ 34)

(注)品目別の売上高は、リベート控除前で記載しております。

売上原価、販売費及び一般管理費の内訳

旧住友製薬

(億円)

	前中間期	当期	増減
売上原価 <工業所有権収入を除く原価率>	198 (29.0%) <29.4%>	217 (29.9%) <31.6%>	+ 19
販売費及び一般管理費	347 (50.9%)	350 (48.3%)	+ 3
うち研究開発費	128 (18.8%)	122 (16.8%)	6

(注)()は対売上高比率

1. 原価率悪化の要因

メロペン製剤設備稼働に伴う償却費増 1.6%

2. 研究開発費減少の要因

開発販売権取得費用の減少 9億円

特別損益の内訳

旧住友製薬

< 特別利益 >

- | | |
|---------------------|------|
| 1. 事業譲渡関連益 | 45億円 |
| (ジルテック、カルセド、一般用医薬品) | |

< 特別損失 >

- | | |
|------------------------------|------|
| 1. 合併関連費用 | 24億円 |
| (システム統合、拠点事務所移設、コンサルティング費用他) | |
| 2. 事業整理関連損失 | 8億円 |
| (骨補填材事業他) | |
| 3. 特別定年退職加算金 | 6億円 |

大日本住友製薬 平成18年3月期の業績予想

平成18年3月期 業績予想

大日本住友製薬

(億円)

	前期 実績	業績予想		増減額	
		当初 5/16	修正 11/8	対前期 実績	対当初 予想
売上高	1,739	2,440	2,450	+ 711	+ 10
営業利益	104	205	223	+ 119	+ 18
経常利益	112	195	210	+ 98	+ 15
当期純利益	69	101	110	+ 41	+ 9

売上高の内訳

大日本住友製薬

(億円)

内訳		業績予想	
医薬品	アムロジン	281	(562)
	ガスモチン	180	
	メロペン(国内販売)	70	(139)
	メロペン(輸出)	49	(129)
	プロレナール	127	
	エバステル	121	
	その他	1,037	
医薬品計		1,865	
工業所有権収入		45	
その他		540	
合計 (うち、輸出高)		2,450 (89)	

注1.()は旧住友での上期実績を加えた年間ベースでの予想額で表示しています。

注2.品目別の売上高は、リベート控除前で記載しております。

売上原価、販売費及び一般管理費の内訳

大日本住友製薬

(億円)

	業績予想
売上原価	1,282 (52.3%)
販売費及び一般管理費	945 (38.6%)
うち研究開発費	335 (13.7%)

(注)()は対売上高比率

特別損益の内訳

大日本住友製薬

< 特別利益 >

1. 厚生年金基金代行部分返上益	8億円
2. 有価証券売却益等	36億円

< 特別損失 >

1. 合併関連費用	61億円
2. 事業整理に伴う損失	2億円

(参考) 単純合算での比較

(億円)

	前期実績	上期実績	下期予想 (11/8)	年間合計	対前期 増減
売上高	3,162	1,572	1,603	3,174	+12
営業利益	384	248	133	381	3
経常利益	378	234	125	360	18
当期純利益	226	139	70	209	18

将来予測に関する注意事項

この資料に含まれる将来の予測に関する各数値は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。

したがって、実際の業績は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。